



第84号
平成19年11月

子育て施設課
電話 0823-25-3144

感染症シリーズ4

【 感 染 性 胃 腸 炎 】

感染性胃腸炎には、細菌によるものとウイルスによるものがあります。

両者の区別は、症状や便をみただけでは十分でなく、便培養や迅速キット（迅速診断判定）によって初めて明らかになります。

病 原 体

ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスなどがあります。

ロタウイルスとアデノウイルスは便を用いた迅速キットで容易に診断できますが、ノロウイルスなどは迅速キットがありませんので確定診断は困難です。

主 症 状

- ★ ウイルス感染症に共通する症状は、感染後1～2日の潜伏期間のあと、突然始まるおう吐とそれに続く下痢、腹痛、時に発熱です。発熱は、病初期にみられます。また、けいれんを伴うこともあります。



おう吐



下痢



腹痛

- ★ 下痢は水溶性、時に白色になりますが、血便や粘血便は伴いません。
- ★ 便の検査では、発症後3週間のウイルス排泄が認められています。
- ★ ロタウイルス感染症のおう吐、下痢は、他のウイルス感染症に比べて重く、おう吐が2～4日、下痢が1～2週間くらい持続することがあります。
- ★ ロタウイルス以外の感染症は軽症例が多く、大部分は1～2日で回復します。
- ★ 頻回のおう吐、下痢を伴うと脱水を起こしやすくなります。
- ★ 症状があらわれないで感染している無症状例でも、ウイルスを排泄している可能性があると考えられています。

感染経路

食品、水を介した食中毒と、ヒトからヒトへの接触（吐物や便）感染、飛まつ感染があります。

飛まつ感染は、上気道（鼻・口・咽頭）からの飛まつによる場合と、吐物や便の不十分な処理によるウイルスの拡散の場合が考えられます。感染力は強く容易に集団発生を引き起こします。

治 療

- ★ 胃腸炎を起こすウイルスに直接効果のある治療法はありません。
- ★ 下痢の程度に応じて食事内容を考えましょう。軽い場合は、お粥など消化のよいでんぷん質を与えましょう。
- ★ おう吐や下痢がひどく水分を受け付けない場合やぐったりした時は点滴による補液が必要です。
- ★ 半日以上排尿がない場合は医師に相談しましょう。
- ★ 下痢止めは、あまり強力なものは用いません。水分補給をしながら治ゆを待つ気持が大切です。



点滴

感染予防対策

- ★ 外から帰った時、トイレの後、食事の前には、必ず石けんで手を洗いましょう。
- ★ うがいをしっかりしましょう。
- ★ 吐物の処理は、塩素系の消毒剤で拭く。処理には使い捨て手袋や使い捨てできる布やティッシュペーパーで拭き取り、処理した後は廃棄しましょう。
- ★ 吐物、便のついたオムツや衣服は、一つ一つ袋に入れて封をする配慮が大切です。また、衣類などは塩素系の漂白剤に漬けて消毒をしてから洗濯しましょう。
- ★ 下痢のある時は、入浴はシャワーだけにするか、入浴する順番を最後にしましょう。お尻は石けんをつけてていねいに洗いましょう。
- ★ おう吐や発熱を認める時は、飛まつ感染の可能性があり、下痢がひどい時は多量のウイルスが排泄されていますので、集団生活は下痢がおさまってからが望ましいでしょう。
- ★ タオルは共用しないようにしましょう。



手洗い



うがい